

『壁に書かれた言葉』(ダニエル書 5章 17-31節) 2021.10.31.

<はじめに> 今日(2021年)は国政選挙の日です。国を治め導く者がどうあらねばならないかをダニエル書は語っています。4章まではネブカドネツアル王の治世(BC605-562)でしたが、5章はその孫ベルシヤツアル(BC553-539)の時代です。ダニエルは老年に入っていたはずですが。

I 王の最後の日(5章)

①王の大宴会(1-4)

ネブカドネツアル亡き後、父ナボニドスと共同統治していたベルシヤツアルはバビロン最後の王です。彼は千人の貴族を招いての大宴会を催します。酒の勢いでエルサレムの神殿から奪った金の器を持って来させて出席者と酒盛りし、異教の神々を賛美します。

②指が書いた文字(5-31)

その時、突如人の手の指が現れて、宮殿の壁に謎の文字が書きます。王は怯え、知者も解読できない中、ダニエルが解き明かします。その読みは「メネ、メネ、テケル、ウ・パルシン」、意味は王の治世の終焉と国の分割です。その夜、それは現実となりました(30)。

③メネ、メネ、テケル、ウ・パルシン(25-28)

「メネ」はく数えて終わらせた、「テケル」はく量って足りない、「パルシン」はく分けるです。メネとパルシンは神の審判の内容で、その理由がテケルです。神は秤でその人を量られます。天秤には、神が与えたものと、神からそれを受けた人が載せられて量られます。

II 神は量られる

①天の神の栄光(1-4, 23)

金は最も重たい光輝く金属で、栄光の荘重さを端的に表します。天の神・主の栄光をたたえるために献納された金の器で、彼は人が作った偶像の神々を賛美し、浮かれ戯れました。いのちと道を治める神とその栄光を軽くあしらう者が、釣り合わないのは自明です。

②父母のことば(10-12, 18-22)

王母はネブカドネツアルの娘で、ダニエルの霊と資質を熟知し、王に推薦しました(10-12)。王も祖父の生涯を「知っていながら心を低くしませんでした」(22)。18-19節は 1-3章、20-21節は 4章と合致します。4章で繰り返された鍵句(21)がここでは反意となります。

③立場と状況(13-16, 29)

怯えて顔色が変わってもなお、彼は王の威厳を振りかざし、召し出されたダニエルを「ユダからの捕虜の一人」(13)と扱います。「できると聞いた」のに「もし〜できたなら」(16)と信じません。最後に王はダニエルに褒美は与えますが、神の前にへりくだっていません(29)。

III 神の天秤の上で

①神が渡されるもの

「国と力と栄えは主のもの」です。その一部を神は人に渡され、その人がどうするかを注目されます。また苦難(ヘブル 12:11)や試練(Ⅰコリント 10:13)の背後にも神はおられ、私たちの内側を探られます。願わしくないものを与えられた時、私たちはどうするでしょう。

②苦難にある者たちの告白

ニューヨークの病院の壁に書かれた作者不明の詩があります。求めたものとは異なるものが与えられた時、大方、戸惑い悩み、神を疑いのろい、自分を蔑む方向に傾きます。しかし神は其中で、私たちが求めなかった重たいものを与えられます(Ⅱコリント 4:16-18)。

③天秤は釣り合う

この詩の作者は、葛藤を越えて神が授けてくださるものを受け取り、彼自身もそれに見合う栄光をまっています。一方ベルシヤツアルは与えられたものも数々の機会もことごとく踏みにじり「風が吹き飛ばす穀殻」(詩 1:4)となりました。いずれも秤は釣り合ったのです。

<おわりに> ベルシヤツアル王は反面教師として、今も私たちに語っています。「いと高き神が人間の国を支配し、みこころにかなう者をその上にお立てになる」(21)のは、今も変わっていません。神の前にへりくだり、悔い改め、あわれみを信じることが、みこころにかなう道です。(H.M.)